

特115

252

中野喜一郎述

小作問題に悩める地主に呈す

(土古山新田捻米問題解決事情)



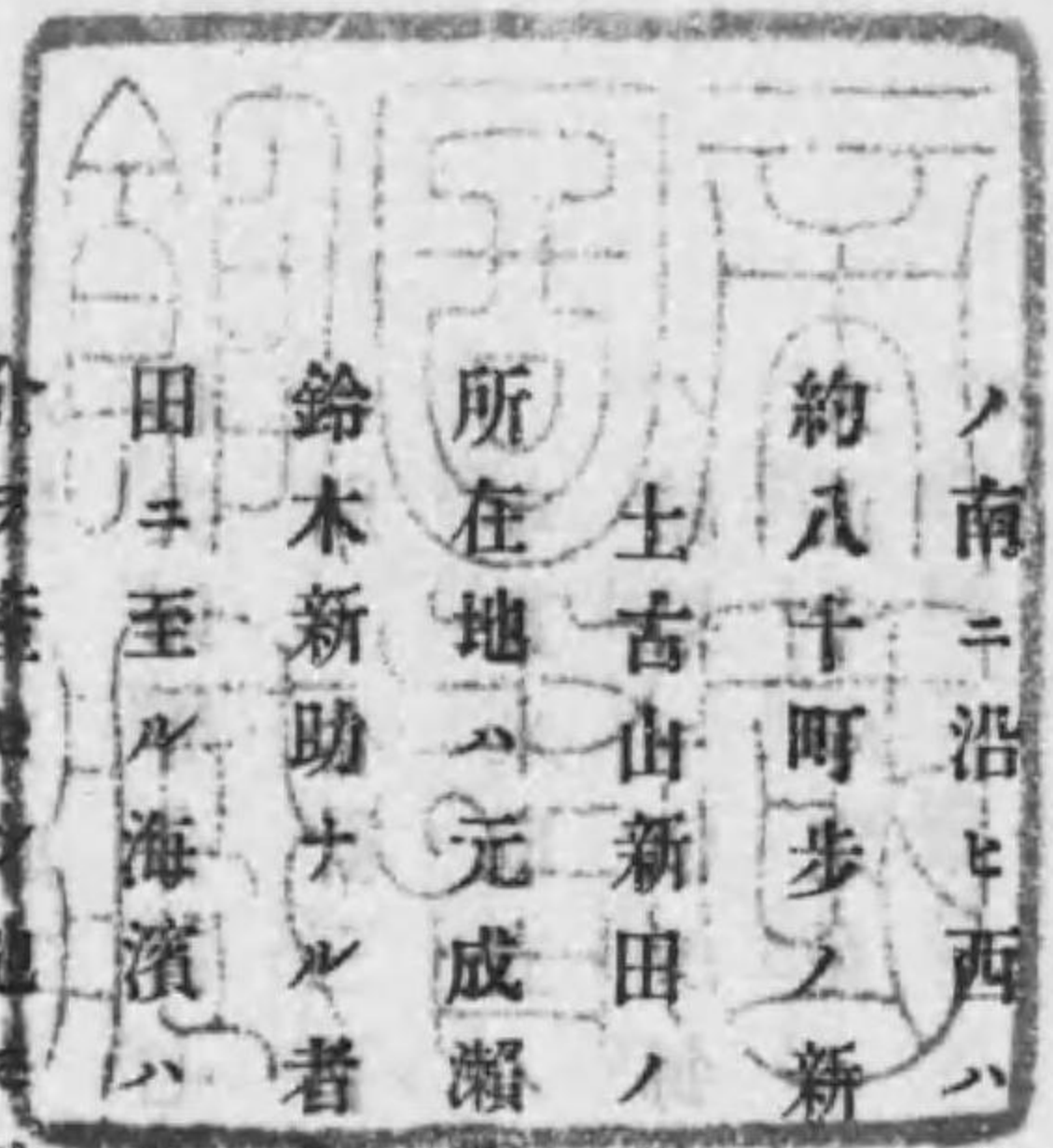
始



第115
252

第一章 總說

土古山新田所在。土古山新田ハ現今名古屋市ニ編入セラレ南區小碓町ニ屬ス市街ヲ南西ニ去ル約一里餘千年ヨリ下ノ一色ニ至ル舊東海道ノ南ニ沿ヒ西ハ當地新田南ハ熱田前新田北ハ東西熱田新田ニ接續ス約八千町歩ノ新田ナリ。



土古山新田ノ沿革。名古屋市史産業編所引笹岡文書ニ據レハ同新田所在地ハ元成瀬軍人正控地ニシテ元文五年尾張藩ノ許可ヲ得テ蟹江村鈴木新助ナル者命ヲ受ケテ開築シタルモノト謂フ。蓋シ木曾川以東熱田ニ至ル海濱ハ木曾川ヲ初メ大小諸流ノ齎ス土砂ノ堆積甚シク前ニ魚介ヲ産シ地ニ數十年ノ後ニハ全ク陸地ト化シ些少ノ勞資ヲ投スレハ容易ニ一帯ノ耕地ト爲スヲ得タリシテ以テ正保以來藩ノ獎勵ト共ニ開築ヲ見タル新田少ナカラス本新田亦右機運ニ乗ジ開築ヲ見タルモノナ

大正
13. 7 4
内交

リ。

地主ト作人。同新田ハ東上百間西上百間西中田東川田等總計二十ノ小字ヨリ成立シ地主ハ現在ニアリテハ名古屋市岡本貴一見田重次中野祐次郎等合計七名ニシテ作人ハ土古地元中ノ割東中ノ割西ノ大體三區ニ別レ合計三百餘名ナリ。

年貢米取立ノ方法。當新田ノ掟ハ大正九年以前ハ不同免ニシテ檢見ノ結果ニ依リ毎年掟額ヲ決定シ居リタルモ作人側ノ切ナル希望ニ因リ大正十年定免ニ改メ九年度年貢ヨリ右定免ニ據ルコトトシ本年ニ及ビタリ。



第一章 掟問題ノ經過

近年勞働爭議ノ頻發ニ伴ヒ各地ニ小作爭議勃發シタルガ愛知縣岐阜縣ノ該爭議ハ全國的ニ有名ト爲リ殊ニ鳴海ノ小作爭議以來益々惡化シ

當新田亦多少ノ影響ヲ免ルルヲ得サリキ以下大正六年以降當新田ニ於ケル掟米解決ノ經過ヲ年度ヲ追ヒ其ノ大要ヲ叙述スヘシ。

一 大正六年

前述ノ如ク當新田ノ掟ハ不同免ナルヲ以テ舊慣ニ基キ收穫期ニ地主ハ作柄ヲ檢見シタルニ開花期ニ降雨多カリシ爲メ結實十分ナラス平年ニ比シ約二割方減收ト認メタリ作人ハ既ニ檢見前ヨリ鎌不足ノ聲ヲ大ニシ檢見ノ際ニモ三々五々地主ヲ圍集シテ威壓シ扱摺ノ際ニハ其數益々増加シ酒氣ヲ帶ヒ喧噪シ直ニ掟額ノ發表ヲ迫リタルモ欠席地主アリタルヲ以テ地主ハ發表ヲ拒絕シタリ。作人ハ爾來屢々會合ヲ催シ掟ノ發表ヲ迫リタルヲ以テ地主ハ協議ノ末掟額ヲ發表シタルモ作人應セス越年シタリ。

當新田ノミナラズ熱田前新田當地茶屋中村稻葉地等何レモ紛擾ヲ重ネ作人ハ社寺ニ集合シテ雜炊ヲ煮酒ヲ飲ミテ氣勢ヲ揚ケ地主ニ免引ヲ

迫リタル爲メ畏怖シテ姿ヲ隠シタル地主モ尠ス所轄熱田署ハ作人總代ヲ召喚シ不穩ノ舉ニ出テサル様注意シタリ。

此ノ年當新田作人ハ總代ヲ以テ掟ヲ定免ニ改定方ヲ申出テタリ其ノ理由トシテ

- 一、附近新田何レモ定免ナルコト
 - 二、不定免ハ收穫多キトキハ之レニ比例シ掟モ多キ故作人ノ利薄シ
 - 三、檢見迄鎌入出來サル爲メ穂コボレ及雀ノ害ヲ蒙ルコト
 - 四、次年度ノ耕作ニ着手シ得サルコト
- ノ四箇ヲ舉ゲタリ地主ハ評議ノ結果作人ノ申出ヲ拒ミタリ。

二、大正七年

一月ニ至リ地主ニ於テ約二割五分ヲ免引シ漸ク作人トノ協定成リタリ、最高一反歩九斗六升最低七斗七升ナリ。(末尾掟表參照)

十二月一日地主ハ例年ノ如ク檢見ヲ施行セントシタルモ田面八分通

ハ刈取リアル爲メ檢見ヲ中止シタリ、本年モ作柄稍不良ノ模様ナリ、十二月下旬ニ至リ從來ノ平均掟ヨリ一割ヲ減額シタル掟ヲ發表シタルモ作人應セス。

三、大正八年

一月中交渉進マス二月初旬作人總代ヲ地主會所ニ集メ支配人ヨリ懇談シタルニ二百名以上ノ作人會所ヲ包圍シ騷擾シタルモ支配人慰撫シテ引取ラシム地主ハ數回協議ヲ重ネ四月ニ至リ漸ク昨年發表ノ掟ヨリ一石ニ付六升ヲ免引シテ解決シタリ。

本年作柄ハ一圓白穂多ク開花期ニ降雨多カリシ結果中晚稻ハ幾分ノ被害ヲ免レス檢見ノ結果ニ基キ當年掟ヲ發表シタルニ減額ヲ要求シテ納入セス但シ従前ノ如ク騷擾ニ亘ルコト無シ。

四、大正九年

一月ニ至リ土古本村ノ作人ハ納入方承諾シタルモ入作ノ者ハ應セス

二月ニ至リ數十人地主ノ宅へ免引ヲ嘆願シ廻リ拒絶セラル、ヤ爾來地主ヨリノ呼出ニ應セス三月ニ至リ地主ハ支拂命令ニ付キ討議シ又所轄署ニ仲裁ヲ依頼シタルモ交渉成立セス五月ニ至リ地主ハ作人總代ト會見シタル結果曲折ヲ重ネ同月中旬ニ至リテ昨年發表ノ掟ヨリ一反歩ニ付四升ノ免引ヲ爲シ且勘定祝十俵ヲ惠與スルコトト爲リ解決シタリ。前記會合ノ際作人等ハ第一ニ先年來ノ懸案タル定免改定方ヲ申出テタルヲ以テ地主モ毎年ノ檢見並ニ掟引ノ問題ニ苦痛ヲ感シ居リタル際トテ右定免改定方ヲ附議スルコトトシ十月以來數回集會シ翌年ニ至リ決定シタリ。

五、大正十年

一月定面額決定シ向フ十ヶ年ハ半作ノ場合ヲ除キ右掟ニ據ルコトニ作人側ト契約成リ契約書ヲ作成シ前年掟米ハ新掟ニ因リ無事納入アリタリ。

九月ニ至リ大暴風アリ被害少ナカラス十一月ニ至リ作人ハ七割ノ用捨引ヲ要求シタルモ地主應セス翌年ニ至リ半作ト認メテ掟ヲ五割免引シテ解決ス。

六、大正十一年、大正十二年

作柄。本年ハ風水ノ害ナカリシ爲メ近年稀有ノ豊作ニテ十一月ニ至リ田面ヲ視察スルニ僅ニ伏穂アルノミニテ一反歩八俵ノ收穫ヲ見タリ。掟引ノ要求。翌年一月ニ至リ作人總代支配人宅ヲ訪ヒ『本年ハ稀有ノ豊作ナルモ肥料高ク生活必需品ノ相場著ク高騰シタルニ拘ラス米價ハ之ニ伴ハス作人ノ生活困難ナルヲ以テ昨年契約ノ定極ノ額ニテハ作人引合ハサル故永久三割ノ掟下ヲ願ヒ度シ』ト申出テタリ。

地主ハ右申出ヲ理由無キモノト認メ拒絶シタリ蓋シ定免ニ協定シタルハ昨年ニシテ今日ノ經濟狀態ハ昨年ニ比シ著シキ變化アルモノニ非ス而モ右定面ノ額ニ最近十年ノ平均掟ヨリ相當減額シタルモノニシテ

頗ル公平ナルモノナレハナリ。

交渉不進。爾來地主ハ作人側ニ掟米ノ納入ヲ促スモ應セス地主側ヨリ交渉ノ爲メ出頭ヲ求メタルコト何回タルヲ知ラサレトモ三月下旬ニ至ル迄一回モ出頭セス

地主間ノ協議 前述ノ如ク作人トノ交渉進マサルヲ以テ地主ハ協議ノ末當年限一割ノ免引ヲ爲シ解決スルコト右免引不滿ノ者ニハ耕地ノ返還ヲ求ムルコトニ決議シ四月中旬右決議ヲ作人總代ニ通告シタルニ作人側ハ何等應否ノ回答ヲモ爲サス

十月ニ至リ地主ノ一員ハ一割五分ヲ限度トシテ掟下ケヲ爲スカ若シクハ斷然法律上ノ手續ニ出ヅルカ二者何レカニ依リ解決仕度旨各地主ニ提案シタルモ賛成者少シ

斯クテ未解決ノマ、收穫期トナリタリ。

十二月ニ至リ作人ハ本年度作柄ハ豫想外ノ鎌不足ニ付キ地主ニ於テ

十分肌ヲ脱キ免引ニ預リ度シト申出テタリ。

支配人ノ報告ニ依レハ十一年度二割十二年度五割ノ免引ヲ爲ササレハ解決不可能ノ模様ナリ。

七、大正十三年度

一月ニ至リ作人ハ地主ヨリ内納ノ納入ヲ促スモ一反歩一俵ノ割合以上納付セサルコトヲ決議シ二月中旬支配人ニ於テ總代ヲ召致シ妥協點ヲ發見セントシタルモ作人ハ十一年度二割十二年度五割ヲ主張シテ下ラス

前述ノ如キ状態ニテ解決ノ曙光認ムル能ハス當新田ノミナラス附近新田一帶凡テ同一ノ有様ニテ地主ノ困却一方ナラス形勢ハ日ヲ追ツテ益々惡化スルノミナリ。

二月中旬ニ至リ地主ノ一員ハ左ノ提案ヲ爲シ各地主ノ賛否ヲ求メタリ。

第一案 捻下ケヲ爲スコト

毎年當年引ニテ解決スルコト其ノ例ト爲ラシカ途ニハ定免ノ實ヲ失ヒ不同免トリ他日作人ノ要求ニ忍從シ難キ状態ト爲リ裁判上ノ請求ヲ爲スヲ止ムヲ得サルニ至リタル際請求スヘキ額豫メ確定セサルヲ以テ訴訟困難ナルニ付此際斷然大英斷ヲ以テ三割ノ捻下ヲ爲シ公正證書ヲ作人ニ差入レシメ定免ヲ嚴守スル案。

第二案 訴訟提起ノコト

鳴海事件カ訴訟提起後約四年ノ歲月ヲ要シタル事實ニ鑑ミ地主ハ訴訟ノ手段ニ出ズルヲ避ケントスルモ作人ノ要求ハ逐年過大ト爲リ止ルトコロヲ知ラサルヲ以テ地主ハ大ナル決心ト覺悟トヲ以テ訴訟ヲ提起スルニ非レハ自滅ノ外無シ。

第三案 内米納ヲ繼續スルコト

當年引ヲ繼續スル時ハ定免ノ實ヲ失フモ内米取ヲ繼續スル時ハ定免

ヲ傷クルコト無シ然ラハ作人ノ要求忍從スヘカラサルニ至リタル際裁判上ノ請求ヲ爲スコト容易ナルヘク未納米ノ請求權ハ十年ハ消滅セザルヲ以テ合セテ請求ヲ爲スヲ得ヘシ

然ルニ地主ノ多數ハ捻下ヲ爲スヲ欲セス又訴訟ヲ提起スル勇無ク又内米取ハ採算上ノ利益ナリト爲シ以上三案何レモ賛成者無シ。

地主ハ更ニ協議ヲ遂ケ大正十一年度二割同十二年度四割迄讓歩スルコト、シ三月上旬作人總代ヲ召致シ承認ヲ求メタルモ地主ノ軟弱ナル態度ヲ觀取セル作人等ハ依然七割ヲ要求シテ下ラス

是ニ於テ地主ノ多數モ今ニシテ對抗スヘキ策ヲ講スルニ非レハ終ニハ毫厘ノ捻米モ納附セサルニ至ルヘキヲ慮リ三月中旬會合ヲ開キ漸ク決心ノ臍ヲ堅メ左ノ決議ヲ爲シタリ

決議

一公正證書ニ依テ契約ヲ明確ニスル者ニ限り定免ヲ大正十一年分以

降將來ニ向ツテ三割掟下ヲ爲スコト。(最高一反歩八斗六升最低七斗)

二、公正證書ノ作成ヲ拒ム者及前記割合以上ノ掟下ヲ要求スル者ニ對シテハ從來ノ定免ノ率ニ依リ未納米ノ請求及貸地返還ノ請求訴訟ヲ提起スルコト。

三、訴訟ト爲リタル場合ニハ如何ニ長日月ヲ要シ如何ニ費用ヲ要スルモ中途屈服セサルコト。

四、各地主ハ步調ヲ一致シ單獨行動ヲ執ラサルコト。

五、必要ノ經費ハ豫メ準備シ置クコト。

右決議ニ基キ支配人ハ作人ノ氏名住所未納米ノ調査ヲ遂ケ着々出訴ノ際ノ準備ヲ整ヘ地主ハ各自費用ノ釀出ヲ爲シタリ。

四月八日地主ノ一員ハ作人總代三十名ヲ地主會所ニ出頭セシメ直接交渉ノ任ニ當リタリ然ルトコロ作人側ハ地主側ノ掟下ノ申出アリタル

ニ因リ其ノ大英斷ニ對シ大ニ感謝シ何分ノ回答ハ來ル十五日爲スヘキ旨ヲ告ケ退出シタリ。十五日ニ至リ作人總代何レモ異議無キ旨回答シタリ。

四月十八日公正證書案文作成ニ付キ地主ノ協議會ヲ催シ更ニ推蔽ヲ重ネ五月ニ至リ成案ヲ得作人側ニ案文ヲ示シタルトコロ五月十六日總代ヨリ右案文ヲ返却ニ及ヒ交渉終ニ破裂ノ形ト爲リタリ。因テ地主ハ即日出訴ノ準備ニ着手シ先ツ總代三十名ニ對シ未納掟米納入及條件附貸借契約解除ノ催告書ヲ發シ一方支配人ヲシテ交渉破裂ノ原因ニ付キ探究セシメタリ。支配人ノ報告ニ依レハ作人側ハ案文ニ半作ノ場合ヲ一石二斗ト定メ一石二斗以上ナレハ減免セサル旨規定シタルヲ以テ公正證書ノ如キ堅キ證文ヲ入レンカ一石二斗ヲ超過スル一升若シクハ一合ノ場合ニモ定免通り納メサルヘカラサレハ作人側ノ利益ナリト謂フニ在リ。地主側ハ右報告ニ依リ妥協ノ餘地存スルヲ觀取シ作人總代ヲ

招致鳩首討議ノ結果一石六斗ヲ標準トシテ一石六斗ニ滿タサル場合ニハ定免ヲ減免スヘキコトニ協定シ總代ニ作人一同ニ贊否ヲ求メタルニ何レモ異議無カリシヲ以テ漸ク二年間ノ難問モ解決ノ曙光ヲ見ルニ至レリ。

前述ノ如ク公正證書作成ヲ要件トシテ掟下ノ申出ヲ爲セシモ證書ノ作成ハ二百人餘ノ關係者ナルヲ以テ容易ニ短期日ニ完成スルヲ得ス其ノ費用モ亦數千圓ヲ要スヘク其ノ間ニ何時交渉不調ト爲ランモ計ラレザレハ地主ハ協議ノ結果辯護士青木紹實氏ヲ代理人トシ名古屋區裁判所ニ民事訴訟法第三百八十一條ノ訴訟提起前ノ和解申立ヲ爲シタルトコロ作人側ハ辯護士吉川直太郎氏ニ委任シ五月二十六日午後一時名古屋區裁判所ニ於テ長濱判事係ニテ目出度和解成立シタリ。
三割掟下ヲ爲シタル新掟ハ左ノ如シ。

字 名 掟 率 (一反歩)

西川田	石 ^キ 七 ^ナ 九 ^キ 一 ^キ
寅年	七〇〇
横割	七三五
十枚物	八〇五
新極下山起	七二一
新極	七四九
前田中田	七七七
角田	八四七
西二ノ三角	七四九
八反歩下山起	七四九
西中田	七九一
西上百間通	八四七
西一三角	七四九

東川田	七九一
西二三角	七四九
福井田	七四九
東百間下山起	七九一
東上百間通	八六一
落杵東	七九一
東一三角	七四九

和解條項ノ主ナルモノヲ拔萃スルニ

- 一 貸附掟額ハ作柄ノ豊凶ニ拘ラス但シ田ニ付テハ作人ニ於テ作柄一
反歩一石六斗ニ滿タスト思料スル場合ハ刈入前ニ地主ニ對シ檢見
ヲ請求ス可シ。
- 二 右請求ヲ受ケタル地主ハ直ニ市縣農會吏員其他公職者ノ立會ヲ求
メ檢見スヘシ。

- 三 檢見ハ各地地主貸附ニ係ル全田地中中等ノ作柄ノ箇所ニ付キ行フ。
右箇所ノ選定ニ前記立會人ニ依頼シ當事者何レモ右選定ニ際シ指
圖ヲ爲シ又ハ選定アリタル場所ノ變更ヲ求ムルヲ得ス。
 - 四 右選定アリタル箇所ニ於テ立會人ハ坪切ヲ行ヒ一反歩ノ作柄一石
六斗ニ滿タサルトキハ地主ハ一斗ヲ減スル毎ニ六升宛ヲ掟率ヨリ
減額ス但シ一斗ニ滿タサルトキハ四拾五入右ハ五分摺トシテ定ム
ルコト
 - 五 作人ニ於テ檢見ヲ請求セス又ハ檢見前ニ刈入ヲ爲シ又ハ地主ノ檢
見ヲ妨害スル場合ニハ地主ハ前條ニ拘ラス減額セス
 - 六 掟米ハ産米檢査合格米ヲ以テ毎年一月末日限地主指定ノ箇所ニ納
附スヘシ納期ヲ過クル時ハ地主ハ各目小作人ニ對シ納期ニ於ケル
正米相場ニ因リ換算シタル金額ニ付キ請求スルヲ得
- 右和解當日地主ト作人總代合シテ四十餘名ハ三ツ藏東海樓ニ於テ大

懇親會ヲ催シ今後モ此ノ圓滿ナル關係ヲ持續シ模範農村タランコトヲ期シ歎ヲ盡シテ散會シタリ。

翌月十日ニ至リ未納米全部納入済ト爲リ二年間ニ亘リタル旋問題モ全ク解決シタリ。

第二章 小作爭議發生ノ原因

當新田ニ於ケル特種ノ爭議ノ原因トシテ數フルヘキモノ無シ作人ノ態度モ鳴海方面ノ如キ惡化シ居ラス今原因タルヘキモノヲ考察スルニ

- 一、米價ノ他ノ物價ニ比シ低廉ナルコト
- 二、作人中名古屋市街及築港方面ニ勞働ニ出ツルモノ多キ爲メ勞働賃銀ニ比シ農業ノ甚シク割ニ合ハサルコトヲ痛感シ居タルコト。
- 三、地主ノ團結覺悟強固ナラサリシニ反シ作人側ノ團結甚ダ強固ナリシコト。

四、附近新田何レモ未解決ナリシコト
 ヲ數フルヲ得ヘク今回幸ニシテ圓滿ナル解決ヲ見タルハ作人側ニ於テ鳴海地方ニ於ケルガ如キ赤化的惡化ヲ爲シ居ラサルコト、地主側が大英斷ヲ以テ三割ノ旋下ヲ發表スルト共ニ交渉不調ノ場合ニハ全新田ヲ荒蕪地トスルモ持久的ニ戰端ヲ開クヘキ覺悟ヲ決シタルトニ依ル而シテ今日ニ於テハ地主ハ益々作人側ト提携シテ農事ノ改良發展ニ資センコトヲ誓ヒ作人ハ益々農事ニ努メ收穫ヲ増大センコトヲ計リ附近新田ノ羨望ノ的ト爲リ居レリ。

第四章 反響

當新田ニ於ケル圓滿ナル解決ハ忽チ附近新田ニ喧傳セラレ當新田ニ耕地ヲ有セサル作人ハ當新田ノ作人ヲ羨ミ又他新田ノ地主ハ當新田ノ地主カ自己ノ權利ヲ克ク確立シタルコトヲ羨ミ居リ市内新聞ヲ初メ東

西各新聞何レモ模範的ノ解決トシテ賞賛シタリ左ニ五月六日ノ東京朝日新聞ノ記事ヲ轉載シテ掲グ

談笑裡ニ爭議カ解ケテ

係判事ノ激勵演說

名古屋市内ニ於テ大正十一年以來拵米問題ニ付キ紛糾ヲ重ネ未解決ノ儘今日ニ至ツタ小作爭議カ訴訟事件ニナラントシタ間際ノ去月二十六日小作人ノ代表者數十名ハ名古屋區裁判所ニ出頭談笑裡ニ和解ヲ爲シタ係長濱監督判事ハ『縣下ノ範トスルニ足ルノミナラス國家ノ爲メニモ慶賀ニ堪ヘ無イ』トノ激勵演說ヲ爲シタ小作人側ハ西區小碓町字土古山新田約八十町歩ノ小作人約二百名テ吉川辯護士ヲ代理人トシ地主側ハ南區熱田旗屋町岡本貴一西區船入町見田重次中區南鍛冶屋町中野祐次郎外四名テ青木辯護士ヲ代理人トシタ。地主側ハ時代ノ樞勢ニ鑑ミ大正十一年同十二年度分ニ付キ小作人側

ノ要求ヲ容レ三割(合セテ六割)ヲ減免シタ許リテ無ク進ンテ十三年度以降大正九年約定ノ舊拵ヲ三割遞下シタ爲メ拵米ハ最高一反歩八斗六升最低七斗ト爲リ縣下ニ其ノ例ヲ見ナイ安イ拵米ト爲ツタカ地主ハ拵下ケト同時ニ今後ノ問題ノ紛糾ヲ避ケル目的ヲ裁判上ノ和解テ契約ヲ明確ニシヤウト作人側ニ申出テ幾多曲折ヲ重ネタ結果作人側モ地主側ノ誠意ヲ諒トシ喜ンテ和解ニ應シタノテ空前ノ多數當事者ノ裁判上ノ和解カ成立シタ。

和解條項中注目スヘキハ借地關係ノ賃貸借ナルコトヲ明確ニスルト共ニ賃貸ノ期限ヲ定メナイコト拵米未納賃貸借權無斷讓渡ノ場合ニ地主ニ契約ノ解除權ヲ留保スルト共ニ不作ノ場合ニ付キ檢見及拵減免ノ方法ニ付キ公平且ツ合理的ナ定メヲシタコトアル。

斯シテ數年ノ問題ヲ圓滿ニ解決シタノテ裁判所ヲモ殆ト例ノ無イコトタト喜ンテ居ル。

控額一覽表

年 度 名	不同免地主發表控											定 免 二 改 定	定免額改正
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年					
西川田	八三	一〇二一	〇六〇	一一三〇								七九一	
寅年	七七	九一八	九三〇	〇〇〇								七〇〇	
横割	八一	九七二	九八〇	一〇五〇								七三五	
十枚物	八八	一〇五五	一一六〇	一一五〇								八〇五	
新極下山起	八一	九九九	一〇四〇	一〇三〇								七二一	
新極	八三	一〇四一	一〇七〇	一〇七〇								七四九	
前田中田	八七	一〇三五	一一四〇	一一一〇								七七七	
角田	九四	一一二二	一二三〇	一二一〇								八四七	
角西二ノ三	八一	九九九	一〇〇〇	一〇七〇								七四九	
八反歩下山起	八〇	一〇〇八	一〇二〇	一〇七〇								七四九	
西中田	八六	一〇三五	一一三〇	一一三〇	全上	全上	全上	全上				七九一	

備 考	右控額ニ										
	テ決定	付六升引 ニテ決定	四升引及 テ勘定税 注	テ納入	リ五割引 ニテ納入	リ三割引 ニテ納入	全	全	全	全	全
西上 百間	九四	一一二五	一二〇〇	一一二〇							八四七
西一ノ三角	八一	一〇〇九	一〇五〇	一〇七〇							七四九
東川田	八三	一〇一七	一〇七〇	一一二〇							七九一
東二ノ三角	八一	一〇一二	一〇七〇	一〇七〇							七四九
福井田	八〇	一〇〇五	一〇七〇	一〇七〇							七四九
東百間下山起	八五	一〇四一	一〇四〇	一一三〇							八九一
東上 百間一	九六	一一四七	一二七〇	一二三〇							八六一
落 秋東	八三	一〇四一	一〇八四	一一三〇							七九一
東一ノ三角	八一	一〇〇八	一〇七〇	一〇七〇							七四九

大正十三年七月五日印刷
大正十三年七月十日發行



【定價 金貳拾五錢】

編者 中野喜一郎

發行者 三輪伊六

印刷者 小池清
名古屋市中區榮町二丁目七番地
名古屋市中區千種驛南

發行所

名古屋市中區榮町二丁目

靜觀堂書店

電話 東一五〇三番
振替 名古屋一六七番

三益社印刷

288
23

大正十三年十月十日發行
大正十三年十月十日發行



發行所

發行所

發行所

發行所

發行所
發行所
發行所
發行所
發行所
發行所
發行所
發行所
發行所
發行所

發行所

發行所

終